

平成22年度 滋賀県立高等学校入学者選抜に関するまとめ

平成22年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、全日制のみの36校43学科、特色選抜実施校は、12校15学科であった。

推薦選抜、特色選抜あわせて、6,253名が出願し、3,206名が入学許可予定者となった。一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は7.9%であった。

以下 () は前年度

< 推薦選抜 >

- 1 出願状況
募集枠 2,482名
出願者数 2,696名 出願倍率 1.09倍(1.04倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者
受検者数 2,696名
入学許可予定者数 2,254名 合格率 83.6%(86.1%)

< 特色選抜 >

- 1 出願状況
募集枠 952名
出願者数 3,557名 出願倍率 3.74倍(3.94倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者
受検者数 3,557名
入学許可予定者数 952名 合格率 26.8%(25.4%)

< 一般選抜・学力検査 >

- 1 出願状況
出願者数 8,492名(8,177名) 確定出願者数 8,430名(8,125名)
確定出願倍率
全日制1.13倍(1.13倍) 定時制0.73倍(0.76倍) 全・定あわせて1.12倍(1.12倍)
- 2 出願変更状況
出願変更者数 667名 このうち62名は出願辞退者
出願変更率 7.9%(7.7%)
(1) 学科別出願変更率では、商業学科が11.7%と最も高かった。
(前年度は農業学科の11.0%)
(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 366名 出願変更率 7.1%(7.7%)
- 3 受検状況
受検者数 8,410名 * 追検査受検者(定時制)1名を含む。
受検倍率 1.11倍(1.11倍)
全日制8,211名 1.13倍(1.13倍) 定時制199名 0.71倍(0.73倍)
- 4 入学許可予定者
(1) 学力検査による入学許可予定者数 7,442名 合格率88.5%(87.4%)
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科 9校11科(18校27科)

< 二次選抜 >

- 1 二次選抜募集校・科および募集定員
全日制 5校6科 22名、定時制 4校5科 90名、全・定あわせて 9校11科 112名
- 2 出願状況 出願者数 123名 出願倍率 1.10倍(0.83倍)
- 3 受検状況 受検者数 121名 受検倍率 1.08倍(0.81倍)
- 4 入学許可予定者 入学許可予定者数 89名 合格率 73.6%(64.6%)

< 入学許可予定者総数および実入学者数 >

- 1 入学許可予定者総数 10,737名
- 2 実入学者数 10,733名
- 3 定員充足率 99.7%(99.1%)

平成22年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[全日時の課程および定時制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

昨年度まで、推薦選抜を実施していた瀬田高等学校(定時制 工業学科)が、推薦選抜を取りやめた結果、推薦選抜実施校は、全日制課程のみの36校43学科(普通科21、専門学科16、総合学科6)であった。特色選抜実施校は、昨年度と同様の12校15学科(普通科12、専門学科3)であった。選抜は、いずれも2月5日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校106校中98校(昨年度105校中100校)、県外の中学校は21校(昨年度23校)であった。出願者数は、普通科で1,087人(昨年度1,010人)、農業学科で263人(昨年度244人)、工業学科で353人(昨年度349人)、商業学科で317人(昨年度284人)、家庭学科で85人(昨年度92人)、体育学科で52人(昨年度44人)、美術学科で52人(昨年度32人)、福祉学科で26人(昨年度28人)、国際学科で30人(昨年度37人)、総合学科で431人(昨年度375人)であった。この結果、出願者数合計は、2,696人(昨年度2,495人)となり、出願倍率(募集枠に対する出願者の割合)は、推薦を実施した普通科では1.09倍(昨年度1.12倍)、専門学科で1.10倍(昨年度1.01倍)、総合学科では1.04倍(昨年度0.90倍)となり、実施学科全体では1.09倍(昨年度1.04倍)であった。この結果、2,254人が入学許可予定者となり、合格率は83.6%(昨年度86.1%)であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校106校中104校(昨年度105校中101校)、県外の中学校は21校(昨年度22校)であった。出願者数は、普通科で3,434人(昨年度3,429人)、理数学科で79人(昨年度93人)、音楽学科で44人(昨年度38人)であった。この結果、出願者数合計は3,557人(昨年度3,560人)となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.85倍(昨年度4.06倍)、専門学科では2.05倍(昨年度2.18倍)となり、実施学科全体では3.74倍(昨年度3.94倍)であった。この結果、952人が入学許可予定者となり、合格率は26.8%(昨年度25.4%)であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,206人が入学許可予定者となり、合格率は51.3%(昨年度50.4%)であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目	募集定員	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	許可予定者数 C	合格率 C/B' (%)
		%	人数A'					
普通科	3,880	20~30	994	1,087	1,087	1.09	927	85.3
推薦選抜 専門学科	農業	440	50	220	263	263	213	81.0
	工業	880	40~50	432	353	353	323	91.5
	商業	480	50	240	317	317	231	72.9
	家庭	160	35~40	60	85	85	50	58.8
	体育	40	75	30	52	52	30	57.7
	美術	40	75	30	52	52	30	57.7
	福祉	40	50	20	26	26	20	76.9
	国際	80	50	40	30	30	30	100.0
小計	2,160		1,072	1,178	1,178	1.10	927	78.7
総合学科	1,080	30~40	416	431	431	1.04	400	92.8
合計	7,120		2,482	2,696	2,696	1.09	2,254	83.6
特色選抜	普通科	3,240	20~30	892	3,434	3,434	892	26.0
	理数	80	50	40	79	79	40	50.6
	音楽	40	50	20	44	44	20	45.5
	小計	120		60	123	123	60	48.8
合計	3,360		952	3,557	3,557	3.74	952	26.8
総合計	10,480		3,434	6,253	6,253	1.82	3,206	51.3

(2) 一般選抜の結果

3月9日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,554人に対し、確定出願者数は8,430人であり、確定出願倍率は1.12倍であった。この結果、7,442人が入学許可予定者となり、合格率は88.5%であった。

3月23日に実施した二次選抜は、二次選抜定員112人に対し、受検者数は121人であった。この結果、89人が入学許可予定者となり、合格率は73.6%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		平成22年度	平成21年度
学力検査	学力検査定員 A	7,554	7,269
	出願者数	8,492	8,177
	確定出願者数 (倍率)	8,430 (1.12)	8,125 (1.12)
	受検者数 B (倍率)	# 8,410 (1.11)	8,095 (1.11)
	不合格者数	968	1,020
	入学許可予定者数 C	7,442	7,075
	合格率 C / B (%)	88.5	87.4
二次選抜	二次選抜定員 A - C	112	194
	出願者数	123	161
	受検者数 D (倍率)	121 (1.08)	158 (0.81)
	不合格者数	32	56
	入学許可予定者数 E	89	102
	合格率 E / D (%)	73.6	64.6
入学許可予定者数合計 C + E		7,531	7,177

追検査受検者1名を含む

(3) 入学者選抜の結果

3月16日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,648人であり、その内、推薦選抜による者は2,254人、特色選抜による者は952人、一般選抜による入学許可予定者数は7,442人であった。また、3月25日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は89人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,737人となった。そのうち、全日制では募集定員10,480人に対して入学許可予定者数10,479人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,733人で、募集定員の99.7%(昨年度99.1%)となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度		
		平成22年度		
		全日制	定時制	合計
県内中学校卒業予定者数				14,582
募集定員 A		10,480	280	10,760
推薦選抜入学許可予定者数		2,254	—	2,254
特色選抜入学許可予定者数		952	—	952
一般選抜入学許可予定者数		7,252	190	7,442
二次選抜入学許可予定者数		21	68	89
総計	入学許可予定者総数	10,479	258	10,737
	実入学者数 B			10,733
	定員充足率 B / A (%)			99.7
				99.1

県内中学校卒業生数は各年度1月15日教育総務課調査による。

* 中高一貫教育に係る併設型高等学校の特例による入学許可予定者は除く。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ工業学科、商業学科の3学科（昨年度6学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	国際	総合	
募集定員	A	10,760	7,240	440	1,000	520	160	80	40	40	40	40	80	1,080	
推薦選抜	募集枠(人数)	2,482	994	220	432	240	60	—	30	—	30	20	40	416	
	受検者数	B	2,696	1,087	263	353	317	85	—	52	—	52	26	30	431
	入学許可 予定者数	C	2,254	927	213	323	231	50	—	30	—	30	20	30	400
	合格率	C/B	83.6	85.3	81.0	91.5	72.9	58.8	—	57.7	—	57.7	76.9	100	92.8
特色選抜	募集枠(人数)	952	892	—	—	—	—	40	—	20	—	—	—	—	
	受検者数	D	3,557	3,434	—	—	—	79	—	44	—	—	—	—	
	入学許可 予定者数	E	952	892	—	—	—	40	—	20	—	—	—	—	
	合格率	E/D	26.8	26.0	—	—	—	50.6	—	45.5	—	—	—	—	
一般検査選抜	学力検査定員														
	A-(C+E)	7,554	5,421	227	677	289	110	40	10	20	10	20	50	680	
	確定出願者数	8,430	*5,114	257	686	310	131	**	**	23	**	20	55	743	
	受検者数	F #	8,410	*5,099	257	684	310	131	**	**	23	**	20	55	741
	入学許可 予定者数	G	7,442	5,381	223	621	277	110	40	10	20	10	20	50	680
	合格率	G/F	88.5	***	86.8	90.8	89.4	84.0	***	***	87.0	***	100	90.9	91.8
	二次選抜定員														
	A-(C+E)-G	112	40	4	56	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	出願者数	123	61	11	43	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	受検者数	H	121	60	11	42	8	—	—	—	—	—	—	—	—
入学許可 予定者数	I	89	36	4	41	8	—	—	—	—	—	—	—	—	
合格率	I/H	73.6	60.0	36.4	97.6	100	—	—	—	—	—	—	—	—	
総計	入学許可予定者	10,737	7,236	440	985	516	160	80	40	40	40	40	80	1,080	
	実入学者数	J	10,733	7,233	440	985	515	160	80	40	40	40	80	1,080	
	過不足	J-A	-27	-7	0	-15	-5	0	0	0	0	0	0	0	
	定員充足率		99.7	99.9	100	98.5	99.0	100	100	100	100	100	100	100	
前年度定員充足率		99.1	99.6	100	95.6	96.2	99.4	100	100	92.5	100	100	98.8	100	

追検査受検者1名を含む。

* 学校出願の数を除いた数。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて次の別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般検査選抜	学力検査定員	A-(C+E)	420	40	256	10	150	10
	確定出願者数		573		351		167	
	受検者数	D	573		351		166	
	入学許可予定者数	E	420	40	256	10	150	10

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,492人に対し、出願変更者数は667人(昨年度631人)、出願変更率は7.9%(昨年度7.7%)となり、確定出願者数は8,430人であった。

各学科別の出願変更率は、商業学科の11.7%が最も高く(昨年度の最高は農業学科が11.0%)、次に、農業学科の11.4%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

学 科	学 校	学 力 検 査 定 員	出 願 者 数 A	出 願 変 更 者 数 B (第1志望を 取り下げた数)	出 願 変 更 率 B/A(%)	確 定 出 願 者 数 C	出 願 変 更 者 数	出 願 変 更 率 (%)
* 普 通		4,595	5,124	366	7.1	5,114	386	7.7
農 業		227	263	30	11.4	257	30	11.0
工 業		677	665	62	9.3	686	28	5.2
商 業		289	317	37	11.7	310	25	9.6
家 庭		110	140	13	9.3	131	10	8.1
音 楽		20	25	2	8.0	23	0	0.0
福 祉		20	16	0	0.0	20	1	5.9
国 際		50	40	2	5.0	55	1	3.4
総 合		680	745	52	7.0	743	78	9.6
学 校 出 願	普通・理数	460	590	29	4.9	573	40	6.3
	普通・体育	266	394	57	14.5	351	21	7.1
	普通・美術	160	173	17	9.8	167	11	7.4
合 計		7,554	8,492	667	7.9	8,430	631	7.7

* 普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全て全日制の課程で愛知高等学校、北大津高等学校(国際文化科)、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の4校のべ9科(昨年度4校のべ9科)であった。また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程で、甲南高等学校、安曇川高等学校、信楽高等学校の3校のべ6科(昨年度4校のべ7科)、定時制の課程では、大津清陵高等学校の昼間部・夜間部であった。実技検査を実施した学校は、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の2校のべ2科(昨年度2校のべ2科)であった。

なお、作文については実施校はなかった。

5 学力検査について

(1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入試から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量をみるのではなく、学校で学んだ知識を基礎に、表現力や判断力・思考力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみることをねらいとした。なお、中学校の新学習指導要領への移行に伴い、平成22年度は、理科の先行実施分を出題範囲に含めた。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどの実践的コミュニケーション能力をみることをねらいとした。

(2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点(5教科合計で540点満点)、水口高等学校国際文化科で国語と英語の配点を150点満点(5教科合計で600点満点)とした。

(3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語52.3点、数学46.8点、社会47.9点、理科49.6点、英語47.3点であった。

[単位制 転・編入学、通信制の課程]

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、52人（昨年度41人）の出願者があり、定員40人に対し1.30倍（昨年度1.03倍）の倍率となった。また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、234人の出願者（昨年度203人）に対して、234人（昨年度203人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、54人（昨年度92人）が入学許可予定者となり、合計288人（昨年度295人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合 計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
平成 22 年度	単位制 転 編 入	40	52	40	1.00	0	—	—	40	0
	通信制	320	234	234	0.73	0	54	54	288	-32
平成 21 年度	単位制 転 編 入	40	41	40	1.00	0	—	—	40	0
	通信制	320	203	203	0.63	0	92	92	295	-25

国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題文章については、「平易で読みやすく、中学生にとって適切な内容で、受検生の感性に訴えるよい文章であった。」「俳句に関連づけた随想的な文章と共同体の祭りを題材とした評論というバランスのよい組み合わせであった。」「体験の大切さや祭りはたず意味について書かれた文章は内容、レベルともに適切であった。」などの意見があった。

設問については、「内容を問うだけでなく、言語事項や表現力も問われており、多様な国語力をみるのにふさわしいものであった。」という意見や、作文に関して「短い字数の中で自分の考えに対応した理由や意見を述べる力が見られるよい問題であった。」「生徒にとって身近な材料で、二つの項目を対比して論述することができ、作文しやすい問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

□において、漢字の問いについては「徒歩」の読みの正答率が若干低い以外は良好であった。また、比喻表現の内容を読み取り答えを選ぶ問いや、古文を読み取る基礎的な力をみる問いについても、正答率はおおむね良好であった。しかしながら、品詞を見分ける問いや、抽象的な表現で書かれている部分の具体的な意味を、文章の展開に即して読み取ることができるかをみる問いについては正答率がやや低く、文章全体の要旨をとらえ、自分でまとめて記述して答える問いの正答率も低かった。このことから、文章に親しむ態度の育成を今後も一層進めるとともに、語と語の関係をとらえながら、内容を丁寧に読み取る力や読み取った内容を簡潔にまとめて表現する力を身につけさせる必要がある。

□の作文では、与えられた材料をもとにして自分の考えをまとめ、適切に表現する力を求めた。受検生にとっては身近なテーマであったが、ポスターに書き入れるふさわしい言葉を選択したうえでその根拠を明確にして表現させる問いであったので、条件をふまえて考えをまとめることができている解答が多く、正答率も低かった。このことから、必要な情報を取り出し、解釈し、身近な生活の中で経験したことや学習したことを活用して、自分の考えをまとめる力のさらなる育成が望まれる。

□において、漢字の問いについては「先導」の書きの正答率が若干低い以外は良好であった。また、漢字の知識をもとに書写における行書についての理解をみる問いや、表現の特徴を選ぶ問いについても、おおむね良好な正答率であった。一方、文脈に即して比喻の内容をとらえることができるかをみる問いや、動詞の音便や活用形の理解をみる問いについては、正答率がやや低かった。また、筆者が主張していることの原因に当たる部分を読み取って制限字数内で記述することを求めた問いについても正答率が低かった。言葉のきまりに関する基礎的な力や表現の特徴に注意して読む力、書かれていることを正確に読み取り的確に表現する力のさらなる育成が求められる。

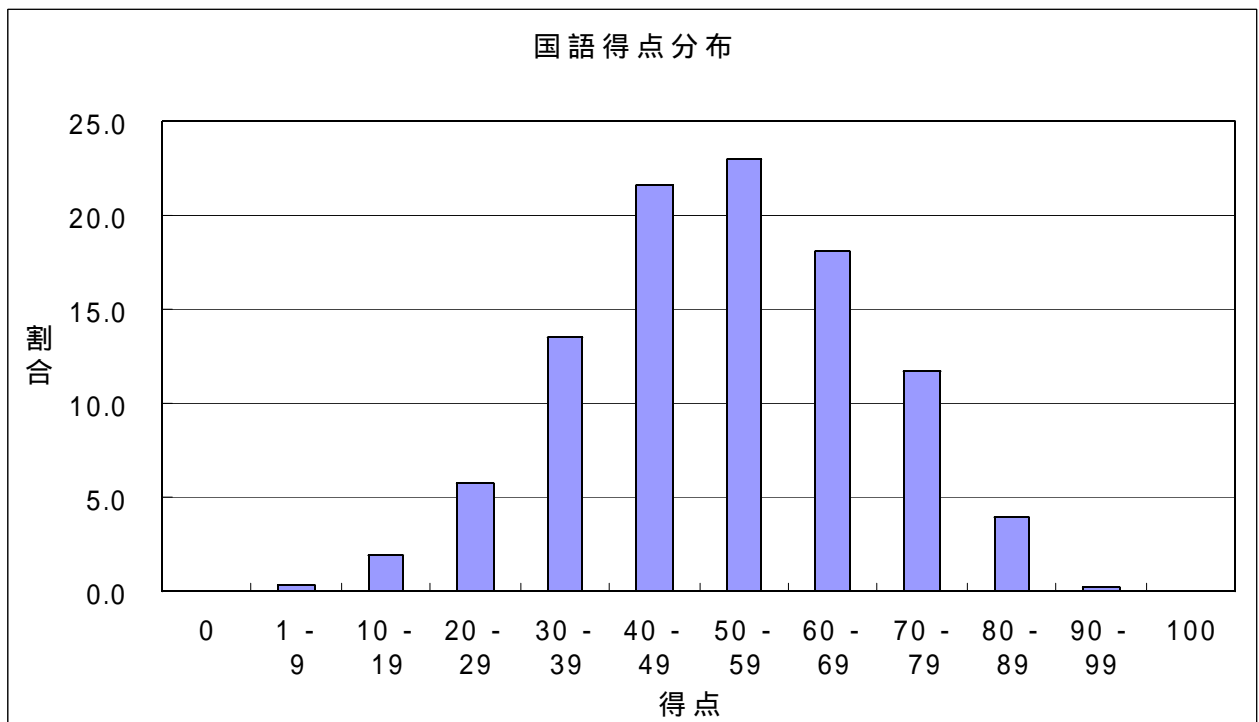
全体として、書かれた内容の大体の意味を理解する力については身につけている。しかし、自分が理解した内容をもとに考えたことを、根拠を明確にして簡潔にまとめ、適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	68.1
		94.2
		88.6
		86.7
		96.0
	2	30.6
	3	37.6
	4	65.6
	5	66.9
	6	1.7
	㊧	18.2

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	83.4
		54.3
		93.8
		94.1
		91.2
	2	72.7
	3	14.8
	4	19.0
	5	68.9
	6	30.5
	7	3.5

年 度	平均点	標準偏差
平22 (100点満点)	52.3	16.3



数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基礎的・基本的な問題が多く、取り組みやすい。」「各分野ごとに基本的事項と応用的な内容がバランスよく配置されている。」「日常に根ざした題材をとおして、中学校での学習の基礎・基本をしっかりとみることのできる出題内容になっている。」「例年に比べて全体的に易化しているが、考えさせる良問が多く、適当である。」「文章読解力を必要としており、問題が何を意味しているのかをじっくりと考えて丁寧に解答していく必要がある。」「説明、証明、作図が直角に関する問題で、偏りがあるように思える。」などの意見が寄せられた。

大問①については「基礎的な計算力を問うにふさわしい問題構成であった。」「(4)は近年にない斬新な問題であり、数学の知識を利用して論理的に説明する力を問う良問。」「(5)はスゴロクをイメージさせる問題で、事象を把握しやすい。」などの意見があった。また、大問②については、「日常にある状況を数学的に考察するということで、問題に入っていくやすかった。」「(3)はPが移動した状態を想像して作図を考えなければならない点で、受験生の力をみる良問である。」「(4)は解き方の糸口を見つけ出すのに難しい問題である。」などの意見があった。また、大問③については、「動点ではなく『動面』という出題内容が面白かった。」「長方形の重なりを関数の問題としてとらえ、数理的に考察する能力をみるのに適切な問題。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の数と式の計算の基礎的・基本的な問題については正答率が比較的高く、よく理解できていた。垂線の作図方法を円の性質に着目して見直す問題は、根拠を明らかにして筋道立てて説明する内容であったが、正答率が低かった。日ごろから、作図の手順と操作の目的を理解できるように学習することが求められる。また、きまりに従ってコマを動かす問題では、条件を満たす確率を求める小問の正答率が低く、問題の意図をしっかりと読み取って確率を用いる能力の育成が望まれる。

②の直線上を進むポートとそれを見ている人との位置関係をもとにした問題は、証明や作図をしたり、平行線と線分の比など平面図形の性質について考察したりする内容であったが、(2)、(4)の正答率は低かった。与えられた図形の性質について直観的にとらえたり、見通しをもって論理的に考察し表現する能力の育成が求められる。

③の平面上に置いた2つの長方形を一定の条件で動かす問題は、重なった部分の面積の変化について数理的に考察し、関数関係を式やグラフに表す内容であったが、(1)以外は正答率が低かった。身近な事象について、与えられた条件を的確にとらえ、関数関係を見だし表現し考察する能力の育成が望まれる。

全体として、数や式の計算、場合の数、関数、図形等の基礎的・基本的な事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、断片的な理解や知識の習得にとどまることなく、数学的活動を通して、数学的な表現や処理の仕方を習得し、言語活動の充実を図りながら、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

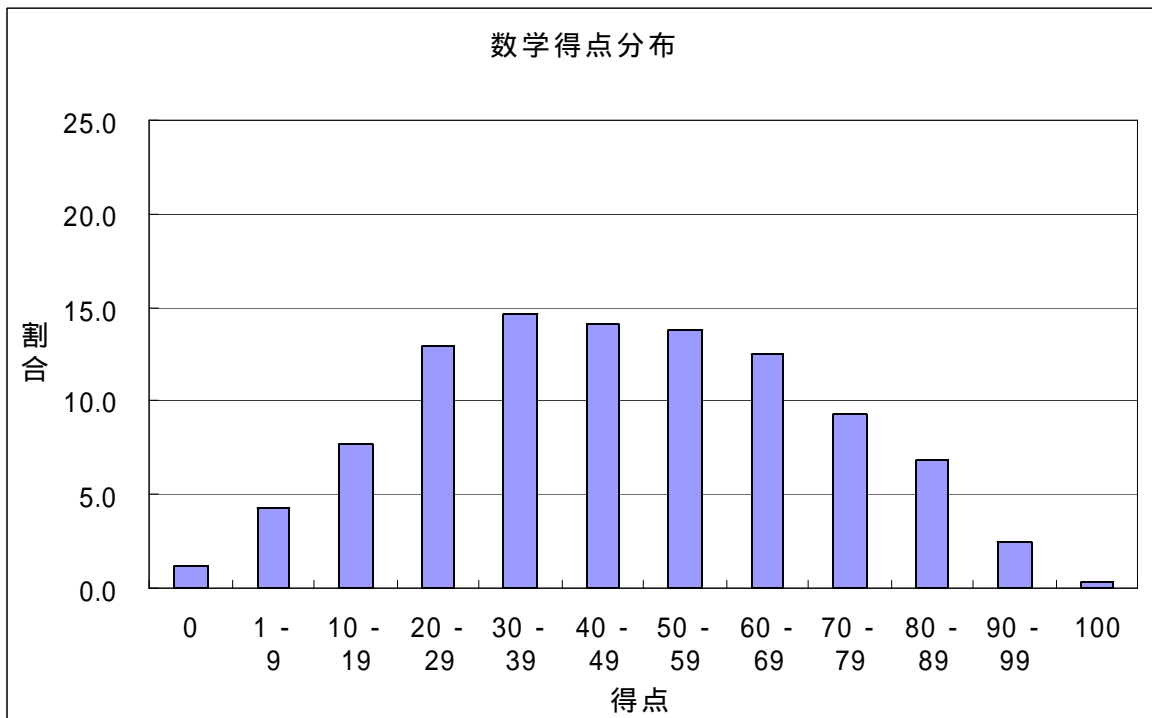
数 学

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	9 4 . 7
		9 0 . 1
		6 8 . 8
		7 5 . 2
		7 6 . 4
	(2)	3 9 . 0
	(3)	4 2 . 4
	(4)	1 3 . 2
	(5)	5 4 . 3
		2 5 . 4

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	7 1 . 4
	(2)	1 2 . 7
	(3)	4 6 . 0
	(4)	2 . 4

問題区分		正答率 (%)
3	(1)	6 3 . 6
		2 7 . 6
	(2)	1 9 . 3
		1 3 . 4

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平 22 (100点満点)	4 6 . 8	2 3 . 4



社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「基礎的事項の理解をみながら地図やグラフ、図表など各種資料を活用して考察し、表現できる力を問うており、学習指導要領の観点にそった問題であった。」「地理的分野においては、日本だけでなく、世界の地理的事象に関して、地図、グラフなどを用いて考察させる良問であった。」「歴史的分野は、古代から現代までの文化や教育の歴史的事象について、資料を読み取り、因果関係を正しく理解したうえでないと答えられない問題もあった。」「公民的分野では、環境をテーマにした滋賀県らしい問題であり、資料を読み取り、考察させ、記述させる問いが増えたのは評価できる。」「地理、歴史、公民の三分野の出題バランスが適切であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①は、略地図をもとに、世界の諸地域と日本の位置を関連づけながら、気候などの基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、資料を正しく読み取り、世界のエネルギー消費量や日本の各県の産業の特色などについて考察し、正しく判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。南半球の気候や日本の地域区分についての問題からは、基礎的・基本的な力はおおむね身につけているといえる。しかし、各地域のエネルギー消費量の特徴を読み取る問題や日本の産業の特色を考えさせる問題では、正答率が低く、今後は複数の資料を適切に読み取る力を育てていく必要がある。

②は、わが国の文化や教育の歴史について、遣唐使の派遣、古代・中世の文化、近世から近現代の教育などを取りあげて、歴史的事項の特徴を的確にとらえる力や適切に表現する力をみる問題であった。古代・中世の時代の特色や文化についての問題からは、基礎的・基本的な事項の理解はほぼできているといえる。しかし、平安時代の文化の特色や義務教育について説明する問題では正答率が低く、問題の意図を読み取り、適切に表現する力を育てていく必要がある。

③では、地球環境に関する国際協力や、家計・企業・政府の役割と責任についての基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、アルミ缶の消費量・回収量やリサイクルマークに関する資料をもとに考察し、正しく判断する力をみる問題であった。税金に関する問題や企業の社会的責任に関する問題の正答率は高く、このことからおおむね公民的分野における基礎的・基本的事項の理解ができていることがうかがえる。しかし、今後、さらに地球環境に関する問題と自らの生活との関連を考えさせる指導が望まれる。

全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかし、資料からさまざまな情報を読み取り、適切に表現する力を身につけさせることが必要であり、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、社会事象を多面的・多角的に思考・判断して表現する力を育成する指導が望まれる。

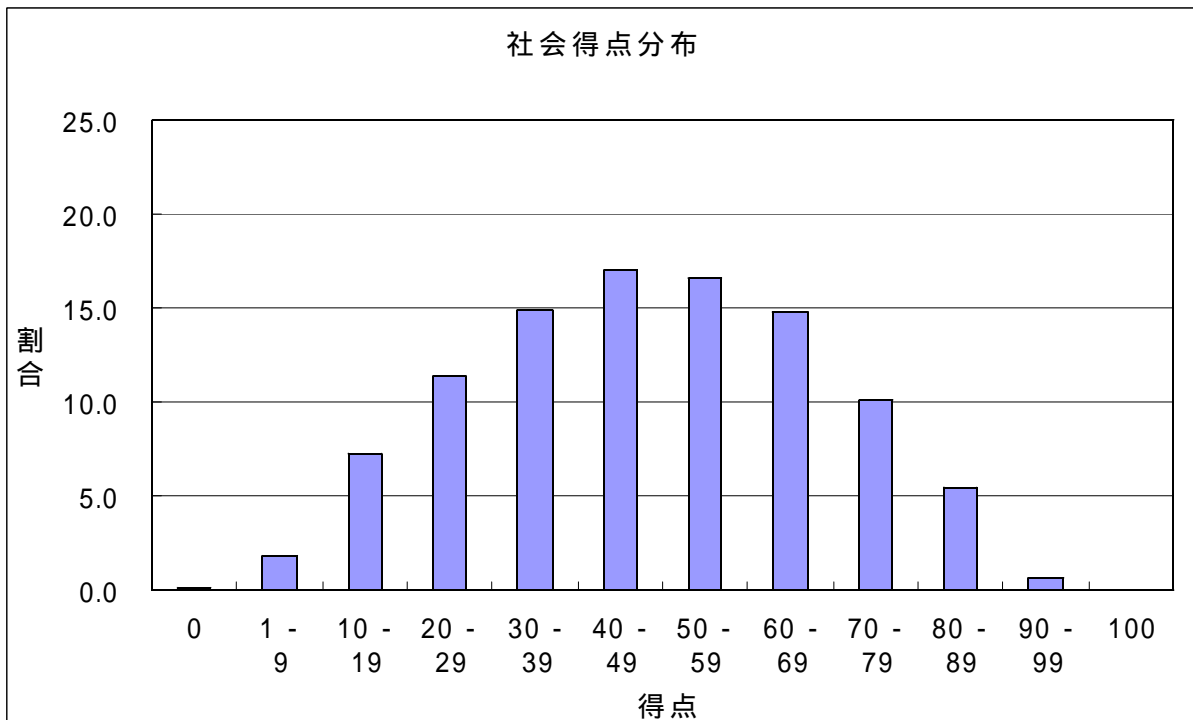
社 会

問題区分			正答率 (%)
1	1	(1)	54.6
		(2)	26.2
		(3)	番号
	国名		48.6
	2	(1)	22.6
		(2)	32.2
	3	(1)	76.4
		(2)	40.4
		(3)	5.4

問題区分			正答率 (%)	
2	1		50.3	
	2	(1)	時代	46.9
			時刻	49.1
		(2)	57.0	
	(3)	24.8		
	3		43.8	
	4		66.8	
	5	(1)	33.6	
		(2)	31.4	
	6	(1)	44.7	
		(2)	A	37.7
			B	32.0
			C	17.5
	(3)	23.0		

3	1	(1)	24.1
		(2)	34.0
	2	(1)	57.4
		(2)	76.1
		(3)	79.3
	3	(1)	49.2
(2)		28.3	

年 度	平均 点	標準 偏差
平22(100点満点)	47.9	20.4



理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、自然の事物・現象について科学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身近な植物や身のまわりの事象、現象について、科学的な見方や考え方ができるかを問う工夫が見られた。」「観察、実験や調べ学習を通して、その結果から科学的な思考力を問うことができるよう配慮された問題であった。」「物理、化学、生物、地学の各分野からバランスよく出題されており、各問題とも考察したことを記述し、自分の考えを表現する力を問うような工夫がなされていた。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、温度と湿度の条件によって水滴に変化した水蒸気の量に違いがあることについて問う問題や、水蒸気が水滴に変わりはじめるときの温度について問う問題では正答率が高く、温度と湿度、水蒸気と水滴の関係に関する基礎的・基本的な事項はおおむね理解できているといえる。一方、グラフを活用する問題や考察したことを記述する問題では正答率が低く、今後さらに実験結果や調べたデータを考察し的確に表現する力の育成が求められる。

②では、根のようすから単子葉類の特徴について問う問題や、根の成長を細胞の成長と関連づけて問う問題では正答率が高く、植物の根やその成長の基礎的・基本的な事項はおおむね理解できているといえる。一方、根の体細胞分裂における染色体の動きについて問う問題では比較的正答率が低く、今後さらに観察結果を考察する力の育成が望まれる。

③では、水溶液に電流を流したとき、それぞれの電極で物質が生成されるしくみを説明することや、実験で起こった化学変化を原子・分子のモデルを用いて表すことなど、化学変化に関する基礎的・基本的な事項を問う問題については比較的正答率が高い。一方、電気分解の実験から、発生する気体を割りだし、その気体の性質を問う問題や、化学変化における物質の量的関係を考察する問題では正答率が低く、今後は複数の実験結果を関連付けたり比較したりして分析し、活用していく力の育成が求められる。

④では、コイルに磁石を近づけると誘導電流が発生することを問う問題や、磁極の違いと誘導電流の向きとの関係を問う問題については比較的正答率が高い。このことから、電磁誘導に関する基礎的・基本的な事項の理解については、おおむね達成できていると考えられる。一方、誘導電流が流れる理由を問う問題や、斜面上の台車の運動と関連付けて、棒磁石を動かす速さの違いから誘導電流の大きさの違いを考察し説明させる問題については正答率が低く、今後は実験結果を分析し、的確に表現する力の育成が求められる。

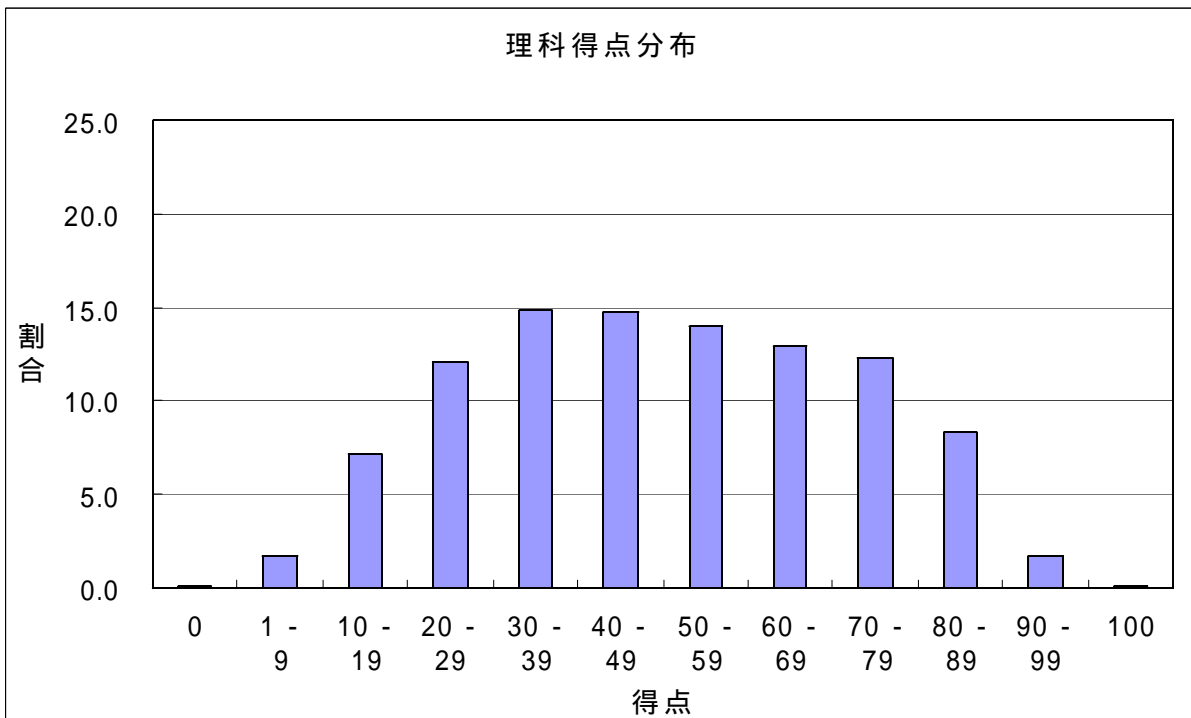
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事象を科学的に考察し認識する力、およびその考察や認識を的確に表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常の中に見られる事象に対して興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識をもとに科学的に探究し、考察したことを的確に表現できる能力の育成が求められる。

理 科

問題区分		正答率 (%)
1	1	68.8
	2	73.3
	3	63.8
	4	33.4
	5	6.9
2	1	86.9
	2	51.1
	3	56.5
	4	42.7
	5	69.5

問題区分		正答率 (%)	
3	1	16.9	
	2	気体名	40.6
		理由	27.0
	3	41.6	
	4	56.0	
5	気体名	37.3	
	体積	18.2	
4	1	39.3	
	2	63.6	
	3	15.1	
	4	43.8	
	5	22.4	

年 度	平均点	標準偏差
平22 (100点満点)	49.6	22.0



英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどの実践的コミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「教科書で学習する内容をしっかり勉強していれば解ける問題であった。」「身近な場面で相手の意向を理解し英語で表現するなど、コミュニケーション能力をみるという観点で工夫されていた。」「聞く、読む、書くことについてバランス良く作成されていた。」などの肯定的な意見があった。一方、表現力をみる問題については、解答の条件設定や配点など出題方法等に改善を求める意見があった。

3 解答の分析

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率や、初歩的な会話の流れや内容を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が現れている。しかし、具体的な内容を聞き取ったり、前後の流れから内容を理解し、英語で適切に表現したりする問題では正答率が低かった。日ごろから、相手が何を伝えようとしているのかを注意しながら聞き、自分が表現しようとするを自ら考え、適切に表現できるような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、スペリングの類似する2つの単語について、生徒と外国人の友人が書いた電子メールを素材にし、内容を的確に読み取るだけでなく、英語で適切に表現する力をみる問題である。平易な表現については正答率が高く、定着がみられるが、英語で適切に表現する力を問う問題などの正答率は低かった。日ごろから、生徒が学んだ言語材料を積極的に活用し、自分の意向が正しく伝わるように書く力を育成することが望まれる。

③は、生徒と先生の会話を題材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。日常会話における適切な応答表現を選択肢から選ぶ問題や、会話の流れを把握しているかをみる問題では、比較的高い正答率であったが、場面や状況に応じて英語で適切に表現する力をみる問題や与えられたテーマについて英語で書く力をみる問題の正答率は低かった。まとまりのある英文を読み、その内容を的確に読み取ったり、与えられた題材について、自分なりの感想や意見を読み手に正しく伝えたりする活動を取り入れることが重要である。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力はあるが、大切な部分を聞き取る力や的確に読み取る力、自分の意見や感想などを相手に正しく伝えるように書く力は十分に定着しているとはいえない。コミュニケーション能力の基礎を養う観点から、英文の正確な語順や構造を意識させるとともに、英語で表現することへの関心・意欲を高める工夫をする必要がある。さらに、ある程度まとまった分量で自分の考えや気持ちを書いたり話したりする活動を繰り返し、相手に正しく伝える力を育成することが望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)	
1	《その1》	1	97.0
		2	96.1
		3	94.2
	《その2》	1	27.8
		2	64.9
		3	39.3
		4	18.1
	《その3》	1	26.6
		2	10.9
		3	31.8
		4	18.1
	《その4》		24.9
	2	1	81.2
72.8			
2		25.6	
3		11.7	
4		26.0	
5		39.5	
6		21.4	

問題区分		正答率 (%)
3	1	56.9
	2	34.5
	3	61.7
	4	68.2
		69.9
	5	57.4
	6	63.6
	7	6.6
	8	36.1
9	33.1	

年 度	平均 点	標 準 偏 差
平22 (100点満点)	47.3	21.4

